

<p>発明の名称</p>	<p>大気環境測定法</p>		
<p>実用化が見込まれる分野や企業</p>	<p>環境モニタリング業，環境コンサルタント業</p>		
<p>出願番号</p>	<p>特願 2020-092149</p>	<p>出願日</p>	<p>令和2年5月27日</p>
<p>特許出願公開番号</p>	<p>特開 2021-188955</p>	<p>出願人</p>	<p>公立大学法人秋田県立大学</p>
<p>技術内容</p>	<p>環境センサを搭載したドローンによる従来の大気環境測定方法には，ドローン編隊（フォーメーション）を構成し，大気中の3次元空間を一定高度でホバリングさせて測定する方法がある。本法は，近距離無線および双方向通信ならびにセンサ間のネットワークを容易に構築できるPM（浮遊粒子状物質）センサ及び複合気象センサ（気温・湿度・気圧）を搭載したドローン（無人飛行体）を用い，大気中の3次元空間中の一定の領域内を自由に飛行させ，地上に配置された地上局から，大気環境の特性分布をリアルタイムで認識することができる。</p> <div data-bbox="671 1144 1307 1541" data-label="Image">  </div>		
<p>発明の効果</p>	<p>本無線センサを搭載したドローンを用い，大気中の3次元空間の一定領域内を一定高度でホバリングさせて測定させるだけでなく，任意の3次元空間を自由に移動させながら測定できる。しかも，ドローンに搭載された環境センサは，近距離無線およびネットワーク通信の機能を有し，複数の環境センサをネットワークで連携させた状態でリアルタイムの測定が可能である。したがって，複数のドローンに本センサを搭載・連携させ，3次元空間を自由に移動させる測定が容易になるため，大気中のPM濃度分布の変動把握や排出源の追跡に利用できる。</p>		

従来技術・競合技術 の概要	大気中の3次元空間の一定の領域内に環境センサを搭載したドローンを一定間隔かつ一定高度でホバリングさせたフォーメーションを組んだ状態で定点測定を行う場合に効果を発揮する。
------------------	--

【お問合せ先】

秋田県立大学 地域連携・研究推進センター

<http://www.akita-pu.ac.jp/stic/index.html>

秋田キャンパス 〒010-0195 秋田市下新城野字街道端西 241 番地 438

TEL : 018-872-1557 FAX : 018-872-1673

E-mail : stic@akita-pu.ac.jp

本荘キャンパス 〒015-0055 由利本荘市土谷字海老ノ口 84 番地 4

TEL : 0184-27-2947 FAX : 0184-27-2194